

令和5年度 研究の概要

1 研究主題

一人一人の主体的な学びを育む学習展開の工夫
～学びをつなぎ、深める子どもの姿を目指して～

2 主題設定の理由

近年学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育活動全体を通して目指す資質・能力を「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養」の3つの柱に整理されている。

本校では「一人一人の主体的な学びを育む学習展開の工夫」を研究主題とし、子どもたちが学習の中で試行錯誤し、試行を働かせ問題解決しようとする「追小学びのプロセス」に沿った実践を積み重ねてきている。昨年度は、学びや変容を自覚できるように「振り返る」活動を重視したことで、自分の言葉で具体的に振り返ったり、友達の考えから学んだことを書いたりすることができるようになってきた。また、算数科では、既習事項をもとに具体物や図などを活用して学習活動を取り入れたことで、「見方・考え方」を働かせながら問題解決する姿が見られた。しかし令和4年度県学習状況調査質問紙の「自分の考えを深めたり広めたりすることができていると思う」については、肯定的な回答の割合が4・5・6年生ともに県の平均を下回っていることから「追小学びのプロセス」の「追究する」場面（学び合い）の充実が課題となった。

今年度は、子どもたちが学び合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることで学びを実感し主体的な学びが続く姿を目指し取組を具現化していきたい。子どもの実態や変容を確実に見取り子どもの解決したいという思いを引き出すような、単元計画や課題設定を工夫し子ども主体の授業づくりをする。また、「追小学びのプロセス」の「追究する」（学び合い）場面で子どもの考えをつなぎそれを広げたり深めたりでき、それぞれの考えを比較・検討するなどの対話的な学びを工夫することで、学びの習得を実感できるのではないかと考える。

3 目指す子どもの姿・育てたい資質・能力

思いや考えを伝え合い、学びを広げたり深めたりしようとする子ども

問いを発する力

既得の知識及び技能、体験から問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決する力

考えを伝え合う力

論理的な思考により形成した自分の考え（思いや意図も含む）を目的や場面、状況に応じて適切な表現方法で伝え合う力

学びの価値に気付く力

各教科等の見方・考え方を働かせた学びや教科等横断的な学びを通して、学びのよさやおもしろさを感じ、価値付ける力

4 研究の仮説

「追小学びのプロセス」の「追究する」場面で、子どもが考えを広げたり深めたりできるように、それぞれの考えを比較・検討するなどの対話的な学びを工夫することで、考えを伝え合う力が身に付き、さらに、子どもが学びの習得を実感し学びの価値に気付く力が育成できるのではないかと考える。

5 研究の全体構想

＜学校教育目標＞
夢に向かって ～ 笑顔 元気 思いやり ～

研究主題 一人一人の主体的な学びを育む学習展開の工夫
 ～学びをつなぎ、深める子どもの姿を目指して～

研究の仮説 「追小学びのプロセス」の「追究する」場面で、子どもが考えを広げたり深めたりできるように、それぞれの考えを比較・検討するなどの対話的な学びを工夫することで、考えを伝え合う力が身に付き、さらに、子どもが学びの習得を実感し学びの価値に気付く力が育成できるのではないかと。

目指す子どもの姿 思いや考えを伝え合い、学びを広げたり深めたりしようとする子ども

主体的な学び

資質・能力の育成

問いを発する力 考えを伝え合う力 学びの価値に気付く力

重点1

学びをつなぎ、広げ深める授業づくり

- 単元計画、課題設定の工夫
- 各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面の意図的な設定
- 「追究する」過程における、対話的な学びの工夫

重点2

学びを自覚化できる授業づくり

- 「まとめる」「振り返る」活動の重視
- 子どもの変容の見取り、学びの価値付け
- 自己評価、相互評価の工夫

実践の充実
「追小学びのプロセス」による授業改善と

重点3

ICTの効果的な活用

- 興味・関心を高め、主体的な学びの展開
- 考えの伝え合いや、学びの深まりの支援

学びの基盤づくり

言葉の質と量を高める

- 言語事項の重点的な指導「言葉のスキルアップ」の継続
- 新聞活用と読書活動の推進
- 辞書の自主的活用
- 言語環境の整備

心を耕す

- 「考え、議論する道徳」の充実
- 自己有用感を育てる学級活動
- 豊かな体験活動
 - ・子ども主体の縦割り活動
 - ・地域素材を生かした生活科・総合的な学習の時間

学びを支える

- 「追小10のきまり」の徹底
- 教科の特性や発達段階に合わせた聞き方・話し方の指導
- ICT機器の操作の指導
- 授業と家庭学習のサイクル化

6 研究の重点と内容

(1) 学びをつなぎ、広げ深める授業づくり

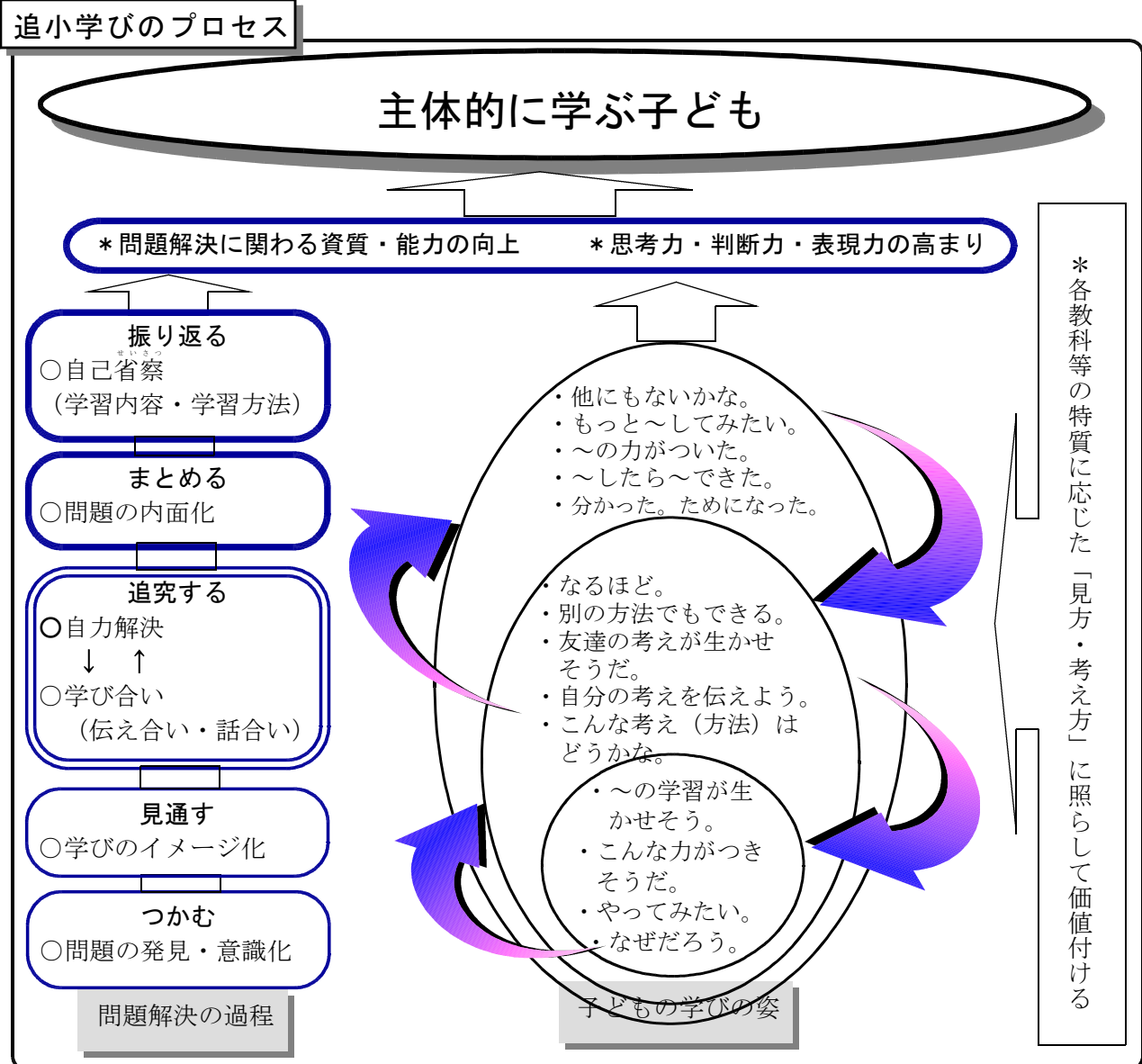
- * 単元計画、課題設定の工夫
- * 各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面の意図的な設定
- * 「追究する」過程における、対話的な学びの工夫

(2) 学びを自覚できる授業づくり

- * 「まとめる」「振り返る」活動の重視
- * 子どもの変容の見取り、学びの価値付け
- * 自己評価、相互評価の工夫

(3) ICTの効果的な活用

- * 興味関心を高め、主体的な学びの展開
- * 考えの伝え合いや学びの深まりの支援



※省察：自己を顧みて善し悪しを考えること

学びのつながり … 内言と外言 自分と情報 自分と友達
 … 単元と単元 教科と教科 学びと生活

学びの自覚化 … 評価規準の明確化 単元の見通しと振り返り
 … 指導と評価の一体化 → 指導の意図・工夫 → 学習状況の見取りと価値付け
 → 子ども自身の学びの自覚 → 指導方法の改善に生かす

思考の方法と言葉

……教科横断的に、ただし、教科の特性や発達段階に合わせて活用

- 【何を基に（既習の知識や技能）】
 【何に向かって（目的・課題解決）】
 【どのように考えているか（思考の方法）】

	たどる	比べる	言い換える
聞く・話す	順序 はじめ—中—終わり	比較・分類 同じところは… 似ているところは… 違うところは… 仲間に分けると…	具体化 例えば… くわしく言うと…
書く	根拠 ～と考えられる理由は… だから～ なぜならば～ 推論 ～のきまり（既知の原理・原則）を使うと…	対比 Aは～。それに対してBは…。	抽象化・一般化 つまり… まとめると… どれにも言えることは…
読む		類推 もし、これらと同じだとすると…	

【学びを促す言葉掛け】

- | | | |
|---|---|---|
| <p>□どこに注目して考えたのですか。</p> <p>□今までの学習と、どこが関係ありそうですか。</p> <p>□どうして……と言えるのですか。</p> | <p>□この中で仲間になる考えはありませんか。</p> <p>□それぞれの考えのよいところはどこですか。</p> <p>□一番よいものはどれですか。</p> <p>□Aと比べてBの考えの方がどうだと考えますか。</p> <p>□他の場合でも同じことが言えますか。</p> | <p>□例えばどんなことですか。</p> <p>□他の表し方(言葉・図・表)で説明するとどうなるでしょうか。</p> <p>□短くまとめると、どう言えますか。</p> <p>□どれにも言えることはどんなことですか。</p> |
|---|---|---|

【思考をつなぎ、可視化する手立て(例)】

思考ツール	道具	操作・記述
・ベン図	・ホワイトボード	線を引く・線で結ぶ
・XYチャート	・付箋紙	付箋を移動する
・KJ法	・シート	色を付ける
・座標軸	・譜面台	番号を付ける
・ピラミッド	・黒板	矢印を付ける
・ウェビング	・タブレット	

「考えを表す言葉のヒント」

- ① 実験結果から分かったことは
- ② 前に習った○○を使って考えると
- ③ 同じところを見つけると
- ④ ちがうところを見つけると
- ⑤ 図・グラフ・表に表して考えてみると

…続きの言葉を考えてみよう！

「何を学び、何ができるようになったか」が自覚できる振り返り

○自己評価の例

(話し合いの場合)

- ・自分の考えに、理由をそえて話すことができましたか。
- ・友だちの意見をよく聞いて、話し合うことができましたか。
- ・友だちの意見と同じところやちがうところを比べながら話し合うことができましたか。

- ・めあてのとおりにはできたか
- ・自力で考えることができたか
- ・グループで考えを伝えることができたか

○振り返りの視点の例

- ・新たに分かったこと
- ・次の学習でがんばりたいこと
- ・自分にとって大切だと思ったこと
- ・ためになった友達の考え
- ・〇〇の場合はどうなるだろうという疑問
- ・これまでの学習とつなげられること
- ・「？」が「！」に変わったこと
- ・もっとやってみたいこと

振り返りのポイント

- ①分かったこと
身についたこと
- ②友達の意見で参考になったこと
- ③これから学習したいこと
調べてみたいこと
- ④学習や生活に役立つ内容